

第3WG 評価コメント

評価者のコメント(評価シートに記載されたコメント)

事業番号3-33 (独)宇宙航空研究開発機構

(GXロケット)

現在の枠組みとしてはプロジェクトとして廃止すべき。エンジン開発としては別の方策として考えるべきで、今回は切り離すことが望ましい。

LNGエンジン燃焼実験をやることにより、エンジン部分に限定して開発したとしても商業化の道は険しいのでは。

「GXロケットの本格的着手を判断できる状況にない」ことから開発は中止すべき。「エンジンの研究」はロケット本体と別に開発する必要がない。

本来の商用ロケットとしての見込みもなく、エンジン単体としての見込みもないので凍結。抜本的に見直すべき。

ビジネスの上で、有効活用される見通しが立たない。その見通しが十分立つまで凍結。エンジン技術のみを切り離すなら、改めて組みかえて予算要求すべき。

これまでの技術開発の成果が、今後活かされる見通しが立つまで、これ以上の税金投入は見送るべき。これまでの成果を技術資産として、確実に保存する必要がある。

GXロケットの目途が立たない中では、開発する理由がない。エンジンを切り離しても需要がなければ開発後の事業化の目途が立たない限り予算計上は見送るべき。

再度ロケット戦略全体の中での位置づけを整理した上で、予算化を考えるべき。

エンジン開発に限定した予算とする。GXロケット開発とは連動させない。

平成22年度1年間だけでLNGエンジンの真空中燃焼技術を確立すべきである。GXロケットとしてのプロジェクトは国費投入して推進する意義が見出せない。

LNGエンジン単体のプロジェクトとして残りの完成までに43億円だが、その全額は来年度には要しない。

現段階で需要見通しが立たず、競争力も乏しく、ビジネス面での見通しも立たない以上、このプロジェクトの着工を続けることは困難であると考え。エンジン部分だけに限定して対応、と考える。

ここまで行われてきた成果を全く無駄にしてしまうのはもったいないので、ここでエンジンとして確立するところまでの43億円で一応終了。同時にビジネスとしての可能性を探ることを要望する。

WGの評価結果

(独)宇宙航空研究開発機構
(GXロケット)

来年度の予算計上は見送り

(廃止 3名 来年度予算計上は見送り 5名 予算要求の縮減 5名
(半額 1名、1/3縮減 2名、7割縮減 1名 その他 1名))

とりまとめコメント

集計の結果、廃止3名、予算計上見送り5名、予算要求の縮減5名となり、縮減の内訳は、半額1名、1/3縮減2名、7割縮減1名、その他1名となった。各コメントの中にもあるが、現在のプロジェクトは、GXロケットの開発としては廃止すべきである。エンジン開発部分については、一旦仕切り直したうえで、エンジン開発を進めることの意味があるかどうかを、しっかりと検討する必要がある。結論としては、予算計上の見送りとする。GXロケットとしては廃止、エンジン開発については、続けることの意味があるのかを抜本的に見直していただくこととする。